

第1回 保育講演会

テーマ「愛を育む絵本の力 ～子どもは自ら育つ力を持っています～」

講師 絵本作家 葉 祥明 先生

去る6月11日(火)、絵本作家の葉祥明先生の講演会が、花の日礼拝のお花に囲まれた礼拝堂で、開催されました。小雨降る中、登山の大変さを感じながら幼稚園の坂を登ってきました…と笑いもまじえて、優しい語り口調で話していただき、肩の力を抜いてリラックスして聞くことができました。

出席 在園関係 83名 卒園生関係他 19名 計 102名

●講演内容

先生がまず、影響を受けたのは、幼稚園の頃に見たイラスト。その中に描かれていたハンカチのパステルカラーに心を奪われたそうです。それが、懐かしく、癒される先生の作品の原点なのでしょう。

スクリーンではたくさんある先生の作品のほんの一部を紹介していただきました。先生は絵本を通して、環境問題であったり、東日本大震災により変化してしまった海への悪いイメージの回復だったり、ひとりひとりが何か意味を持って生まれてきているということや、胎児や赤ちゃん、子どもの立場からお母さんへメッセージを送ったりと、幅広い視点から読者に語りかけています。北鎌倉にある葉祥明美術館の写真は、まるで絵本の世界に入り込んだかのような四季折々の風景が広がっていました。



先生は次のようにお話してくださいました。

『読み聞かせの大切さ』

母親の膝の上に座らせて読んであげることが大切です。

この状態で読んであげること、母親と密着でき、そばで声を聞くことができます。そして、子どもは母親の体温や感触、声の響きなどを身体全体で感じることができます。このような経験があることで子どもは安心、安全、母の愛を感じ取るにつながるのです。

『母親は見守る姿勢が大事』

母親はただ見ているだけではなく、心を使って感じ取ることが大切です。

子どもに対して、心は配っても心配はしないこと。母親として達人になってください。

子離れ、親離れをしっかりすること。そうすると、子どもは力強さや自立心を身につけることができます。そして、親は自分自身を見つめ、問い続けていくことが大切です。

子どもを信じ、うんと抱きしめ、愛してあげてください。

●質疑応答

皆さんからたくさんの質問がありました。先生の幼少時代のこと、お母様のこと、今後の絵本のテーマについてなど、ひとつひとつ丁寧に答えていただきました。最後に、園長先生が質問され、笑いの中、楽しい雰囲気での質疑応答を終えました。

●朗読

最後に礼拝堂の照明をうす暗くし、ゆったりとしたBGMを聞きながら葉先生が詩の朗読をしてくださいました。深呼吸をし、先生のソフトな声に耳を傾け、平穏な空間に身をゆだねると安心感があり、自然に目をつぶり、リラックスした状態で詩に聞き入っていました。温かい詩に涙を拭う方々の姿もあり、心が洗われた思いでした。

本当のしあわせは静けさと安らぎの中にあると言われていたとおり、しあわせなそして、豊かな時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

(記録 すみれ組 黒沢めぐみ 重松裕子)
講演会DVD貸出希望の方は事務室まで…

素晴らしい講演会ありがとうございました。

葉先生をはじめ、スタッフの方々、本当に感謝致します。

葉先生が始めに野毛山の坂を三浦雄一郎のエベレスト登山にかけて話した所でママ達のハートをつかみ、優しい少々なまりのある口調が、なんとも人なつこさ感じさせて、とても親しみ易いお人柄で、最後までずっと引き込まれました。

スライドの作品、美術館の絵、どれも素敵で魅力がとてもわかり易かったです。

先生の朗読は、あちこちですすり泣きが聞こえてきて、先生のお顔を見ると、その中にお母様が見えてきて、母の愛を感じる度に熱いものが込み上げてきました。

帰宅後、いつも寝ながらの読みきかせを、今日は先生の言われるように息子を抱きかかえて「しあわせってなあに？」を読みきかせました。

息子は「きれいー」と本のページをめくる度に言っていました。最後の方でジェイムスとグレイスが小さく描かれていて、どこにいるのかわからなくて見つけると「あーいたいた！」と、とても嬉しそうに見つめていました。

次に「子どものころを感じてみようよ」を読みました。

「ママはぼくのこすきかな？」という文で、私が「大好きだよ。」と言ってぎゅっと抱きしめました。息子は照れ臭そうに「まあー」と笑い、次のページで「ボクのママはせかいいち！とってもきれいだ！」という所で、息子を見ると、同意を求めたのに息子は寝息を立てて深く眠っていました。きれいな風景に吸い込まれる様に眠っている寝顔により一層愛おしさを感じました。

この本の「ボクはボクなりの学び方があるんだ、ボクのなかにはボクを尊く賢い存在がいるんだよ」という文面は、先生がどのようにこの文章を生み出されたのか伺ってみたい衝動に駆られました。先生は、子どもの頃そのように思っていたのでしょうか？

私は本を読んで改めて子どもの存在、人格を、再認識しなければいけないのだと思いました。

プロに言うのも失礼ですが、「上手いなー、ボクを尊く賢い存在がいるだなんて！」流石です。

とても心に響きました。 感謝を込めてー

ひまわり赤 大波田 志保

私は絵本は読み聞かせをするものの、常識的に知っていてほしい物語を選びがちでした。

しかし、先生のお話を聞いて、絵本は知識だけでなく、親子の時間や愛情や絆を育み、優しい気持ちや綺麗なものを見て綺麗だな、と感動できるものなのだとなりました。また、愛情を知らないと、危険が解らないという言葉聞いて納得したり、得るものの多い時間をいただきました。俄然興味がわいてきたので、夏休みにオレンジペンギンのイベントもあるので、家族で北鎌倉の美術館に行く予定です。

最後に、先生の仰っていた「役割をもって生まれてきている」役割ですが、私の役割は、子どもに逢うことだったのかなと思いました。

子どもを産む前と比べて意識や考え方がかなり変わり、毎日大変で腹立たしく思うことも多々ありますが、やはり子供は宝物だな、と日々思います。

このような場を設けてくださった葉先生や、幼稚園、役員のかたに感謝致します。

すみれ白、ひまわり白 鍵山麻祐子

子どもの頃、大切にしていたレターセット。ピンクやオレンジ、みずいろやきみどり色の風景が好きで、いつも眺めていたのを思い出しました。静かな教会に流れるBGMと先生の優しい朗読になぜか涙がとまりませんでした。出会いが出会いを生み、今回の講演会が開かれたこと、素敵なお絵本、先生との出会い、そして、わが子が私たちを選んで生まれてきてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

すみれ赤 松本美智子

先日は、楽しいお話と心に沁みる朗読をありがとうございました。

中でも特に、“ボクはボクになるためにうまれてきた”というフレーズが胸に残っています。

どんな“ボク”に育っていくのか、過干渉にならずに子どもを信じて見守ることの大切さに改めて気付かされました。

また、最近、子どもを膝の上に乗せてする読み聞かせの数十分間が、とてもかけがえのない愛しい時間に感じています。

このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝いたします。

チューリップ赤 武藤 佳子

絵本の持つ力を改めて感じる事ができました。静けさと安らぎの中の先生の朗読は、とても優しく癒され、そして暖かな時間を与えてくださいました。この出会いを心から感謝致します。素敵なお講演会を本当にありがとうございました。

すみれ赤 三橋 直美

母親の愛の偉大さを知り、感動致しました。

親から無償の愛に包まれた記憶をもつ子供は、挫折に強く、おとなになった時、相手を思いやり、自分より大切な存在を見つけ、愛する事が出来ると教えて頂きました。

私の愛の注ぎ方で、子どもが将来、愛に溢れた人生をおくれるかが決まってしまうのです。

仕事、家事、子育てに奮闘し、忙しい毎日を送っています。頭の中で常に「早く早く」と焦っている自分があります。私自身、安らぎ・平安なくして周囲に愛を与えられるとは思えません。皆が幸せになる為に、まずは簡単そうで難しいこととは思いますが、感謝の気持ちを忘れず、いつも笑顔でいることを心掛けたいと思います。そして葉先生伝授の読み聞かせを行い、たっぷりの愛情を感じてもらおうと思います。

早速実践したところ娘はうっとりとても幸せそうでした。育児は自分を育てること、娘と共に親として、一人の女性として私も成長していきたいです。

チューリップ 白 畑澤 英恵

最近ひらがなの読み書きに自信がついてきたようで、絵本もひとりで読みたがり、寝る前の1冊以外は一緒に読む機会が減っていました。今回、葉祥明先生の読み聞かせのお話を聴き、講演会の際に購入した『オレンジいろのペンギン』を幼稚園から帰って早速一緒に読みました。「えー？だっこでよむのー？！」と言いながらニコニコ顔で座る娘。私の顔と絵本を交互に見ながら嬉しそうに聞き、「こんどすいぞくかんにいこう！ペンギンのくびオレンジかなあ？」と楽しそうに話していました。

また、『子どもを見守るということ』『いつか必ずくる親離れと子離れ』について考える機会をいただきました。入園した頃は私から離れられず泣いてばかりいた娘が最近「ママ、もうカエルのもんでバイバイできるから！」と言います。娘のペースで一步一步成長していることを嬉しく感じています。

近い週末、葉祥明先生の美術館と紫陽花を観に家族で鎌倉を訪れたいと思います。今回は素敵なお話と詩の朗読をありがとうございます。

チューリップ白 田口 純子

葉 祥明先生のあたたかでユーモアあふれるお話しの数々、特に絵本の読み聞かせについてのお話して抱っこして一緒に絵本を見ることで親子が密着でき、安心、安全で愛されていることが実感できる、5才頃までは親に愛情を注がれ受け入れてもらうことがとても大切という所が印象的でした。

最近 息子が成長して 一人でも本が読めるようになってきたのをいいことに、「これ、読んで」と頼まれても 何かしら理由を言って断っていた事を反省し、そのうち私がお願いしても(笑)一緒に絵本を読んだり、遊んだり出来なくなる日がくるのだから 今一緒に楽しめる時間を大切に日々過ごしていきたいと思いました。

最後の絵本の朗読はとても心に響き涙せずにはいられませんでした。このような貴重な時間を与えてくださりありがとうございます。

すみれ赤 長谷川 美那

心が洗われる一、まさしくこういうことなのだと体感いたしました。

朗読を拝聴し、息子よりも母の顔がでてきた私は、母親としてまだ未熟なのでしょうか(笑)

ひとときの講演会ではありましたが、ずっと心の底にあるような、そんな時間を過ごせました。

ありがとうございます。 すみれ白 永井奈津子

きこえてきた

つばやき…

ボタンと閉じた本を持ち、退場されたその姿を含めて最後まで感動しました

「愛」だったんだね。愛情あふれた講演会だったね…

葉祥明先生の本と出会ったのは、入院中の病室でした。

妊娠7か月で陣痛が起こってしまい、なんとか薬で抑えたものの、そのまま長期入院。

なかなか赤ちゃんを授からず、やっとお腹に来てくれた命が不安定な状態とあって、とても不安な毎日を過ごしていました。そんな時に出会った葉先生の本は、心にすーっと染み入り、涙が止まらなかったことを覚えてます。

初めてお会いした葉先生は、作品から思い描いていたとおりのお人柄でした。

お優しくして強い。そして、とても穏やか。葉先生のことばひとつひとつに吸い込まれていく自分がいました。

信じることと愛することの大切さ、心を穏やかに物事と向き合うことの大切さ、

心を配るということ。葉先生の本を折にふれて開きながら、毎日を過ごしていきたいと思えます。

またひとつ宝物が増えました。ありがとうございます。

チューリップ赤 大川 陽子

葉先生の作品との出会いは偶然訪れた北鎌倉の美術館でのこと。淡いパステルトーンで描かれた絵はどれも美しくとても穏やかで…。その柔らかく優しい色調がとても印象的でした。それから十数年経ち、私は二児の母親となり、葉先生のお話を聴講する好機に恵まれた今回、先生の詩やお話がこんなにも自分の心に重く響き、救われるような癒しを得られたことにとても驚いています。同時に言葉や絵の持つ力の大きさ、素晴らしい痛感致しました。先生の作品には様々なメッセージが込められていますが、何より『母親』という不変の存在に込められた思い・言葉には深い理解と切ないほどの愛を感じずにはられません。母親として常に子供と向き合い生きる毎日はとても充実している反面、孤独や迷いと隣り合わせ、日々奔走する中で自分を見失いそうになることさえある気がします。しかし今回先生の発する一言一言に触れ、そのメッセージに癒し励まされて今自分が母親でいられることの幸福を改めて感じる事が出来ました。

このような経験をさせていただき、また貴重なお時間を与えていただきましたことを心より感謝致します。

すみれ白 杉野 麻子

小学生の頃に大切にしていた一枚のポストカード、それは眺めているだけでホッと、優しい気持ちになれる母からもらった大切な宝物でした。それが葉先生の作品だったとは…。「こんな素敵な優しい絵を描く人って、美しい心を持った優しい女性なんだろうなあ」などと勝手な想像をしていたのを覚えています。そして今回30年の時を越えて、詩人でもあり画家でもある 葉祥明先生の講演会に出席する事が出来て、ご縁を感じとても嬉しく思います。

葉先生は30年前の私の想像とは違う男性ではありましたが、気さくなお人柄に魅了されてしまいました。詩の朗読では先生の優しい声と素敵なBGMが心地よく胸に響き、二人の娘の事や自分の母の事を思い重ね合わせ感動と共に癒しの時間を過ごすことが出来ました。

最後にこのような機会をくださった葉先生、園に心から感謝致します。ありがとうございます。

ひまわり白 中澤 希美

葉祥明先生の講演会は、私にとって本当にびっくりするようなタイミングでとても心にしました。葉先生と、このような機会を用意してくださった園の先生方に感謝申し上げます。私事ですが、今年初めに祖父を亡くし、悲しみとともに慌ただしいまま入園式を迎え、慣れない生活の慌ただしさに心身ともに疲れていたところに、葉先生の優しい語り口調と素敵な絵、そして、まるで私の心の中をご存じかのようなずしりと響く言葉たち・・・
特に最後の先生の詩の朗読は、涙があふれて止まりませんでした。そして他の方たちも、涙をぬぐっている姿を見て、ほっと心が温かくなりました。「ああ。私だけじゃなくて、みんな同じように、毎日子供や家族と向き合っているんだな」と。涙とともに、心も身体もほぐれるような気持ちになりました。また、葉先生の「男はオスであるから、しっかりと人間に育ててください」というお言葉には思わず笑ってしまいました。一番印象に残った言葉は、「心は配っても、心配はしない。子どもを、子どもの魂の計画を信じること」でした。まさに私は、心配ばかりして見失っている事が沢山あると気づかされました。葉先生の作品は今回が初めてで、予約も合わせて4冊購入させて頂きましたが、正直言いましてまだきちんと目を通していません。これから時間を見つけて、ゆっくりと読ませて頂きたいと思えます。野毛山幼稚園に入園し、子どもだけでなく私たち親も、成長できる、豊かになれる機会を与えて下さり、本当に感謝しております。ありがとうございました。
ひまわり赤 宇山美穂子

従順で幼かった子どもたちがぐんぐん成長していく。その成長を見ながら、私は喜んだり、心配したりを繰り返し、いつも子どもたちのことで胸がいっぱい。「親の気持ちなんかわからないんだろな」とつぶやいていました。ところが、子どもの気持ちがわかっていなかったのは私の方でした。先生は親離れ、子離れを絵本を通じて子どもの声でやさしく教えてくださいました。子どもがおとなにうまく伝えられない、でも、理解してほしい想いを代わりに伝えてくださいました。「心を配る。でも心配はしない。」巣立っていくその時まで、やさしいひとと言とほほ笑みを絶やさず、子どもたちを愛で包みこんでいこうと思えます。貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。
チューリップ赤 中曽根孝子

葉祥明さんの絵とは長いお付き合いで、絵本、便箋、カレンダーなど、若い頃から私の身の周りに沢山ありました。主人も葉祥明さんの絵が好きで、気球の絵に出会った時に、二人で思い切って版画を求めてしまったほどです。特に、ちょっと寂しい時や悲しい時に、葉祥明さんの絵は、私をいつのまにか元気にしてくれていました。そんなファンであったのにも関わらず、詩を沢山書かれていることに、鎌倉の美術館を訪ねるまでは、気がつきませんでした。おかあさんの詩に出会った時、涙がぼろぼろ出せばらくその場から離れられません。講演会でお会いした葉祥明さんは、想像していた通りの優しい方でした。そして泣かせるのがお上手な方でした。特に印象に残っているのは、リリー・フランキーさんのお母さんのエピソード（台所の引き出しに、写し書きた、あの詩が折られたんで入っていたこと）と子どもを膝に抱き絵本を読み聞かせることの意味と、最後の、詩の朗読の中の『人生には 君が欲していることではなくて 君に必要なことが起きるんだ！』の一節です。『東京タワー』の映画を見た時に、ああ、これは葉祥明さんの詩なんだ、と多分感動したとは思いますが、鎌倉の美術館で手書きの詩に出会い、今回の講演で引き出しのエピソードをお聞きし、葉祥明さんの温かさ、やさしさ、愛というようなものが、改めて、ひしひしと伝わってきました。赤ちゃんの気持ちがよく分かるとおっしゃる葉祥明さんに、膝に抱いて絵本を読み聞かせることの意味をお話頂くと、そうしてもらう子どもは本当に幸せなのだろうなと、心から思いました。私は二人の子どもにも、お腹に居る時から小学校の高学年まで、読み聞かせだけは、毎日のように続けました。子どもの為というよりは、自分が本が好きで、読みたいという気持ちが強かったのですが、子どもたちが優しい人に育ってくれたのは、読み聞かせのお陰だったのかなと、葉祥明さんのお話を伺って少し自信が持てました。
市川 博子

先生の作品はパステルカラーでその色彩からとても優しい雰囲気を感じていました。お話の中で、先生が幼い頃に出会った絵本に原点があると知り絵本とのふれ合いの大切さをあらためて知りました。講演会では、親子の絆と愛情について語りてくださりソフトで包み込むような言葉に引き込まれていきました。最後の詩の朗読では、会場全体が愛と優しさで満たされとても幸せな気持ちになりました。私は、ひとりの母親であり妻であり女性であり人間であるということ...そして私にも愛しい母がいることを感じ、とても安らいだ幸せな気持ちになりました。このような素敵なひとときを与えてくださり、心より感謝いたします。
マーガレット 林 諭子

大学生になった我が子に対して、心を配るより、心配ばかりしていることに気づきました。心が解き放たれ、気持ちのよい涙が止まりませんでした。明日も、無心になってお皿を洗います！ランチを作る時は、もちろん、子どもたちのために心を込めて、心を配ります。すばらしい講演会に出席させて頂き、ありがとうございました。
ランチ室調理師 石井なぎさ



心豊かに時間を過ごさせていただきましたことに感謝いたします。葉先生を通して、人として、母として、さまざまな自分を見つめる機会を与えていただきました。日常の中で、少しの時間でも静かな静寂な時間は大切。恵まれた礼拝堂という空間の中で...瞑想(めいそう、Meditation、メディテーション)の時。
月・木 朝8時50分～9時10分頃
行事などにより、決められた日でも開放できない場合もあり、また反対に他の日でもできる場合があります。どうぞ、自由に礼拝堂にお入りになり、美しい曲を聴きながら静かに瞑想の時を持ってください。